



学校だより 7・8月 第402号

横浜市立六つ川西小学校 (TEL) 742-6301 (FAX) 743-2394

URL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawanishi/>



「互いを理解するために」

学 校 長

表題は、本校からコンテストに参加した6年生児童のスピーチのテーマです。

令和6年6月20日(木)に南公会堂を会場として「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト(南区審査会)」が開催されました。

今年で28回目を迎えるこのコンテストでは2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」(SDGS)に基づき、貧困をなくすことや、不平等を減らすことなど、様々な視点から「国際平和のために、自分がやりたいこと」について、子どもたちが、発信します。

六つ川西小学校からは、6年生の女子児童がこのコンテストに参加しました。

ジェンダー平等の視点から、男の子、女の子で話し方や接し方が、変わってしまうことについての違和感を感じ、どんな人であってもその人の見た目や心を理解し、分かり合うことをすれば平等な国になれる。そんな国になるために、まずは自分の周りの人に積極的にかかわり、たくさん話をしながら少しでも相手を理解できる人になりたい、なろうと思っている。と、大きな会場で堂々と自分自身の気持ちを語ることができました。

スピーチコンテストを終えた翌日、学校の廊下で話しかけると、

「スポットライトを浴びて緊張したけど、自信につながった。同学年の人たちの経験をた

くさん知ることができ、自分自身も成長した気がする。」と、参加した喜びを私に話してくれました。

世界経済フォーラム(WEF)がまとめた2024年版「ジェンダーギャップ・レポート」が発表され、男女平等の達成率を比べる「ジェンダーギャップ指数ランキング」で、日本は146か国中118位でした。過去最低の順位だった前年の125位からわずかに持ち直したものの下位グループを抜け出せず、世界から取り残されているのが現状です。

この調査で15年連続世界一となっている北欧のアイスランドでは、「男女協働参画法」が2008年より施行され、教育課程の全てでジェンダー平等を教えることが義務化され、家庭と学校が一体となり、その基本となる「男女が互いを理解すること」についても共有が図られているそうです。

私たち大人が、偏見や差別、固定観念を排除し、互いの理解を深めていく努力を重ねてこそ、子どもたちにも相手を尊重し、自分や周りの人を大切にする姿勢が育まれ、次世代に向けたジェンダー平等の意識が脈々と受け継がれていくのだと思います。

「互いを理解し合う」姿勢が、持続可能で平等な社会の基盤となることを改めて子どもから教えてもらいました。

夏休みの過ごし方

～学校や家庭で子どもが安心・安全にICT端末を利用できる環境を整えましょう～

～六つ川中学校ブロック 地域の約束～ を確認しましょう!

保護者は、子どもに与えた情報機器について

- ・フィルタリングをかけるなど、安全に使えるよう設定します。
- ・使用時間を適切に決めます。
- ・暗証番号を管理し、使い方を把握します。
- ・家庭での話し合いにより、家庭ごとの約束を決めます。

スマホの使い過ぎは、「認知機能の低下」「脳過労」「ゲーム依存」にもつながると言われています。

大人も子供も適切な使用時間をご家庭で話し合しましょう。

